

# 居住系介護施設における転倒転落の報告書分析

2020.2.18 第4回松戸市介護保険運営協議会資料

松戸市在宅医療・介護連携支援センター

## 方法

- ◆対象：転倒転落の事故報告書 420件  
（報告対象：受診に至ったケース）
- ◆期間：2019年7月-2020年3月
- ◆介護保険課が手作業で匿名化
- ◆在宅医療・介護連携支援センターで受託
- ◆報告書を1件ずつ読んで情報収集、記述統計を行った

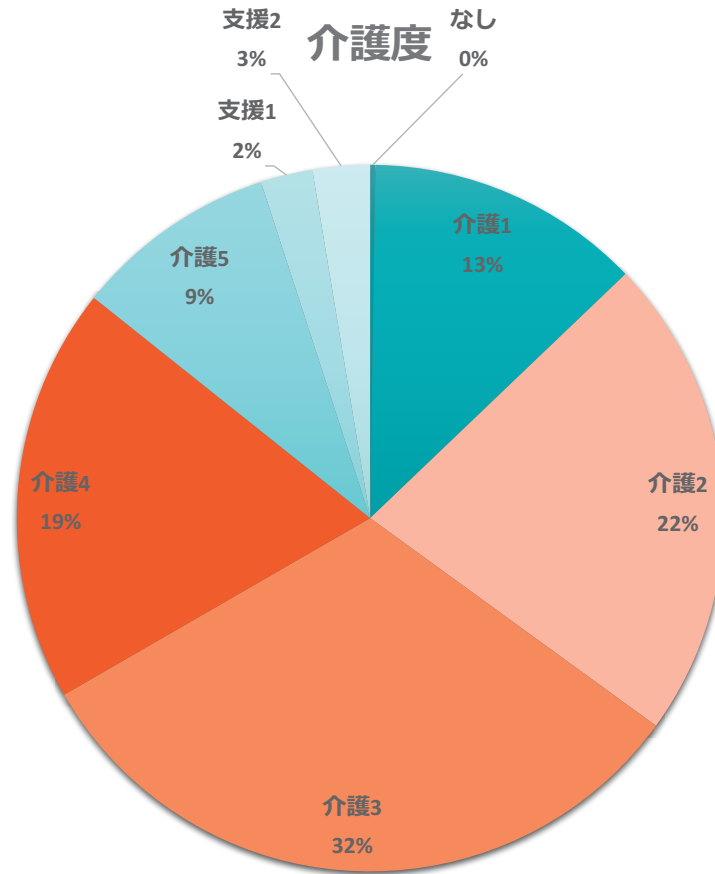
（参考）松戸市

人口	約50万人
居住系施設定員	約 9千人

# 要介護2-4で全体の4分の3

## 結果 1

全420件

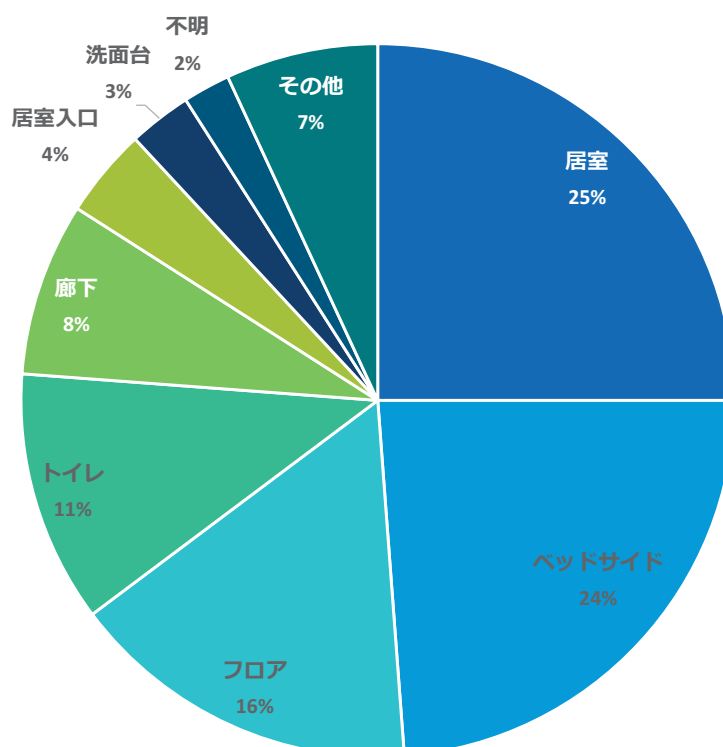


# 居室内や立ち座りをする場所でよく発生する

## 結果 2

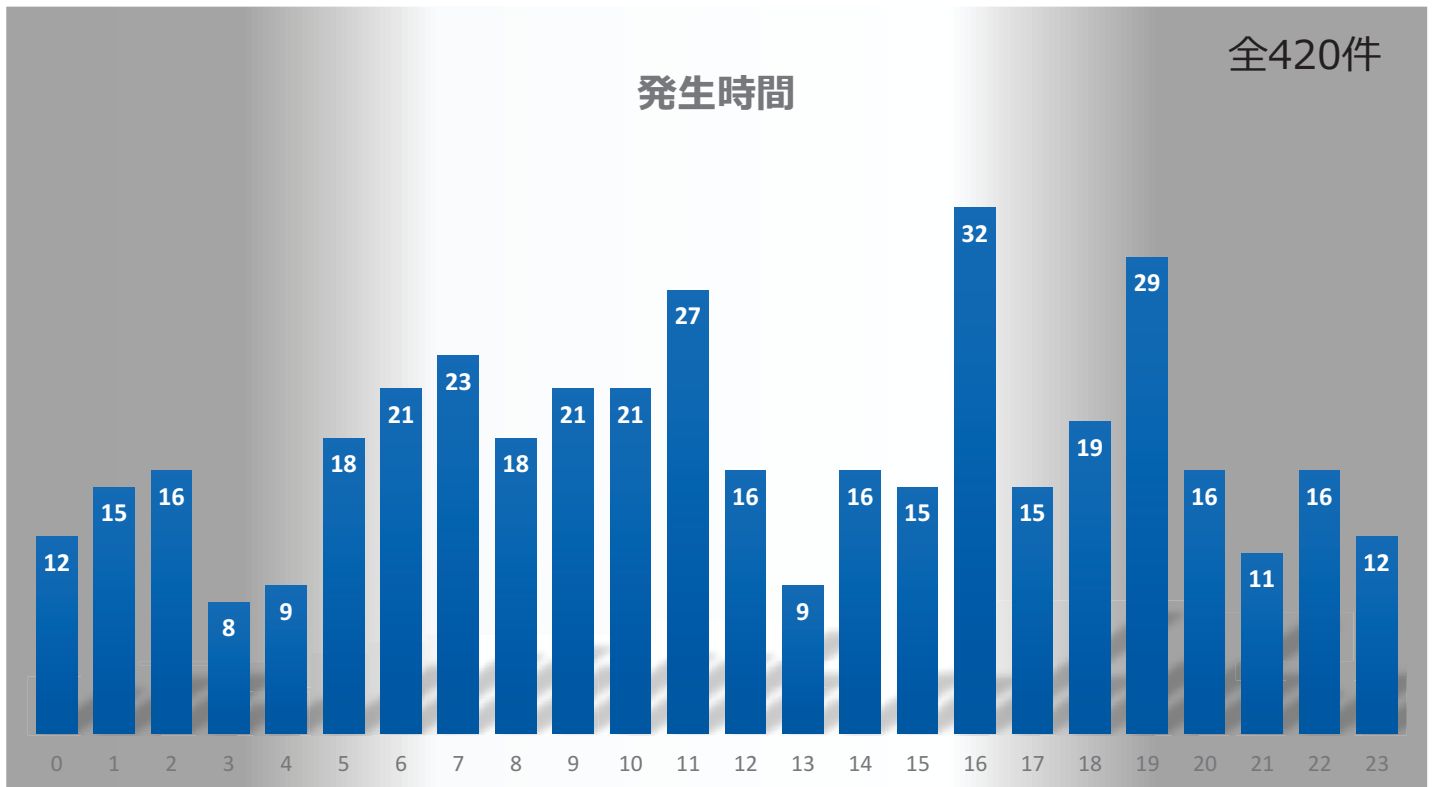
転倒場所

全420件



# 活動時間帯のほうが多いが、深夜帯にも起こる

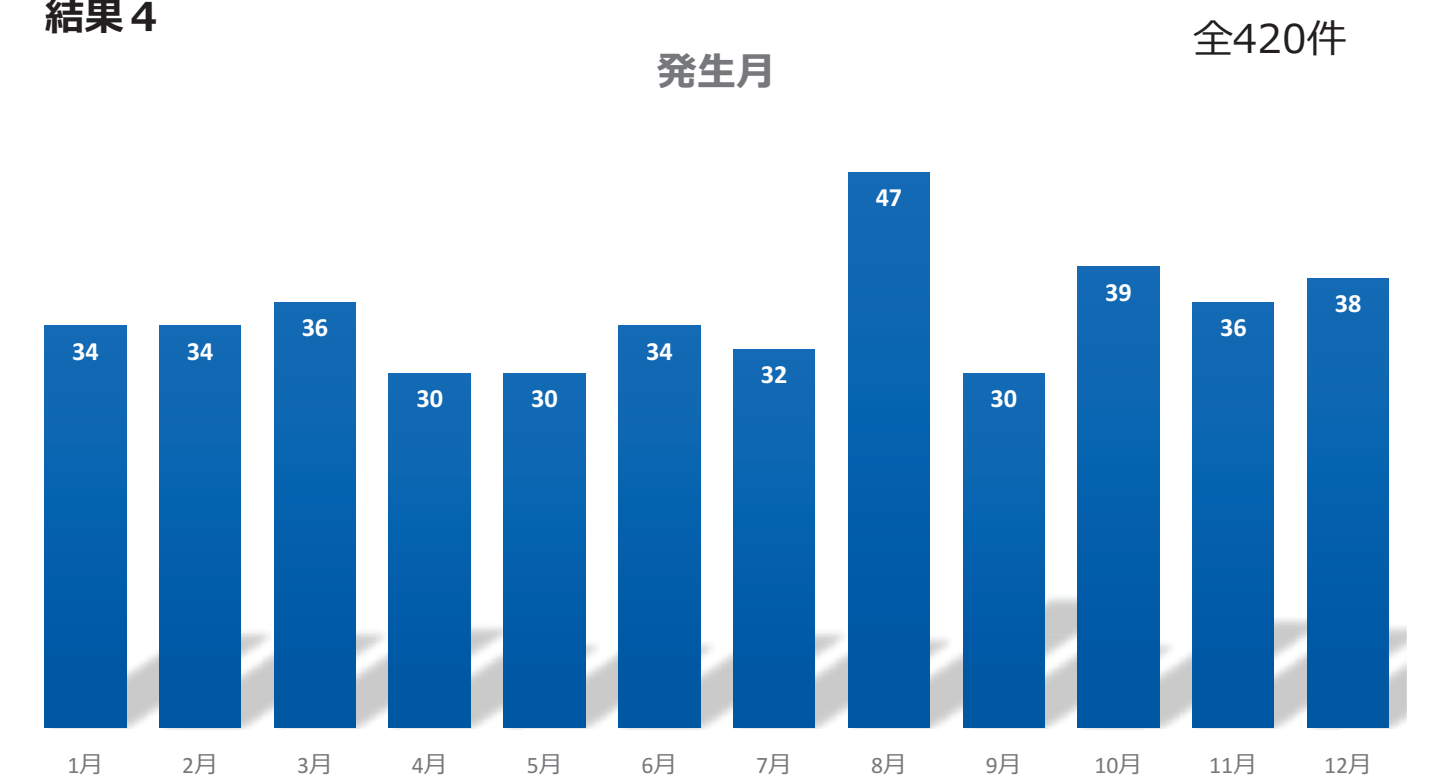
## 結果3



食事やおやつ、保清の時間帯に発生件数が多い傾向がある

# 月や季節による発生件数の変動はない

## 結果4



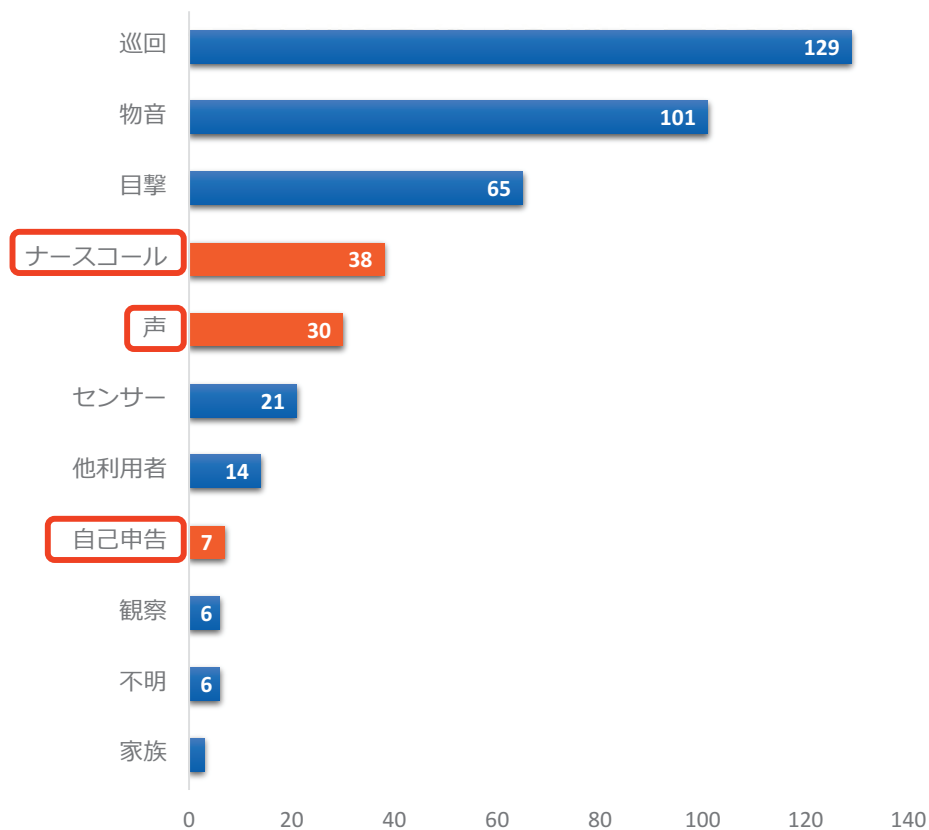
8月の発生件数が突出している理由は不明

# 自ら転倒を訴えられない事例がほとんど

## 結果 5

### 転倒を発見したきっかけ

全420件

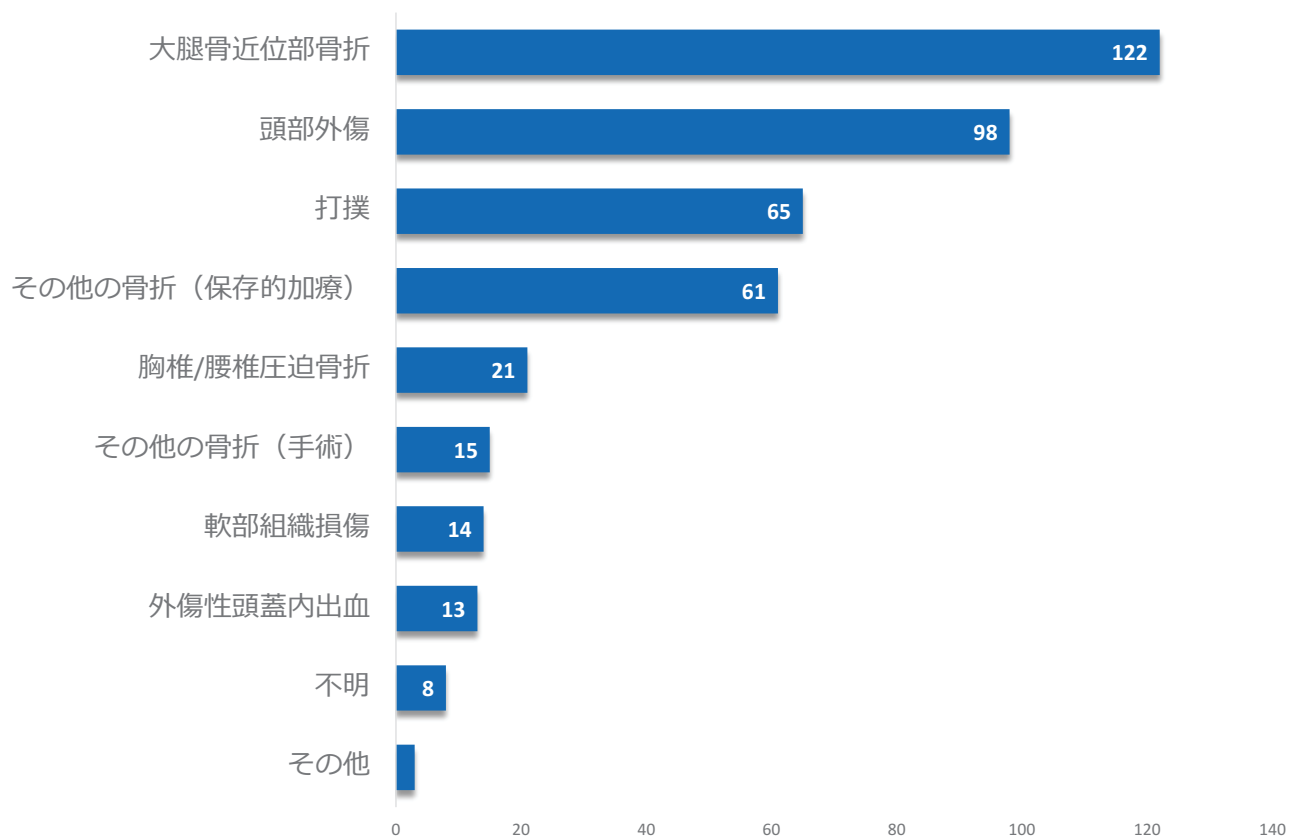


# 受診を要した転倒の3割が大腿骨近位部骨折

## 結果 6

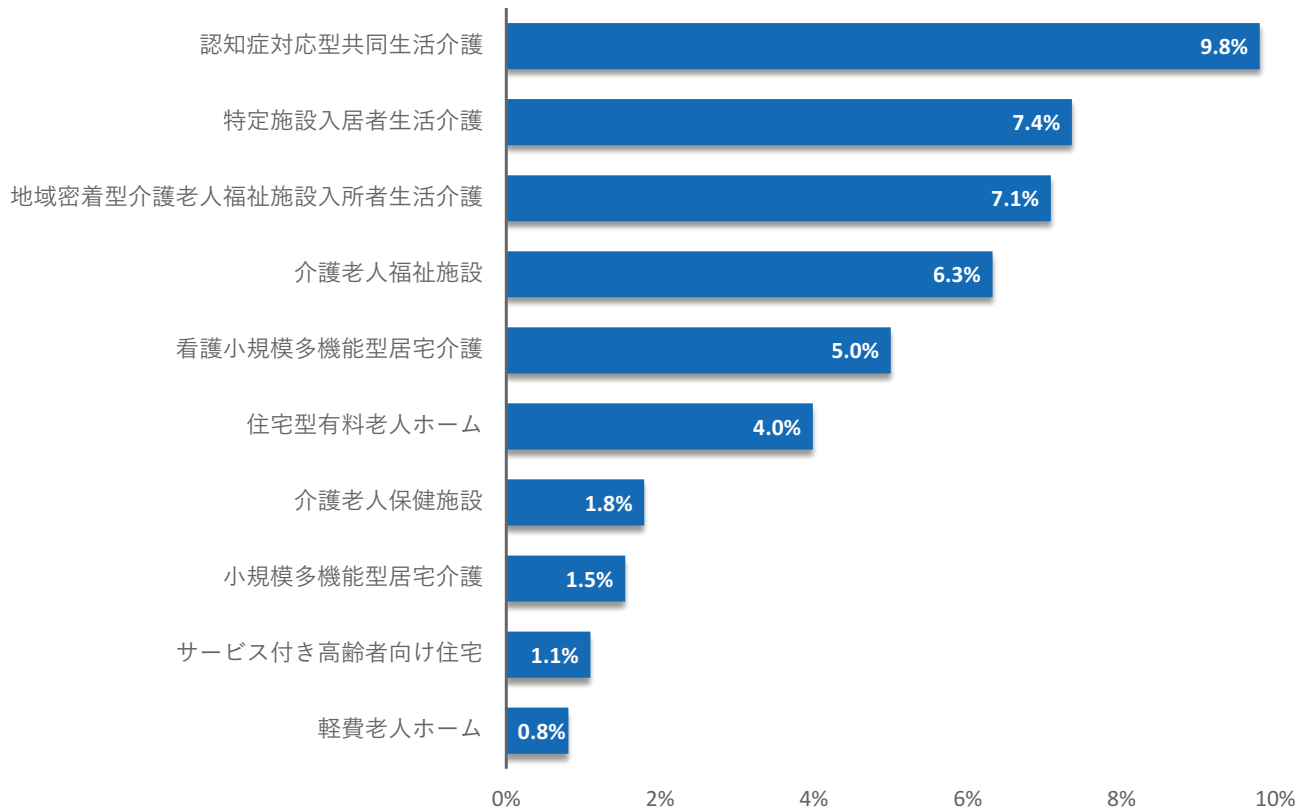
### 最終診断

全420件



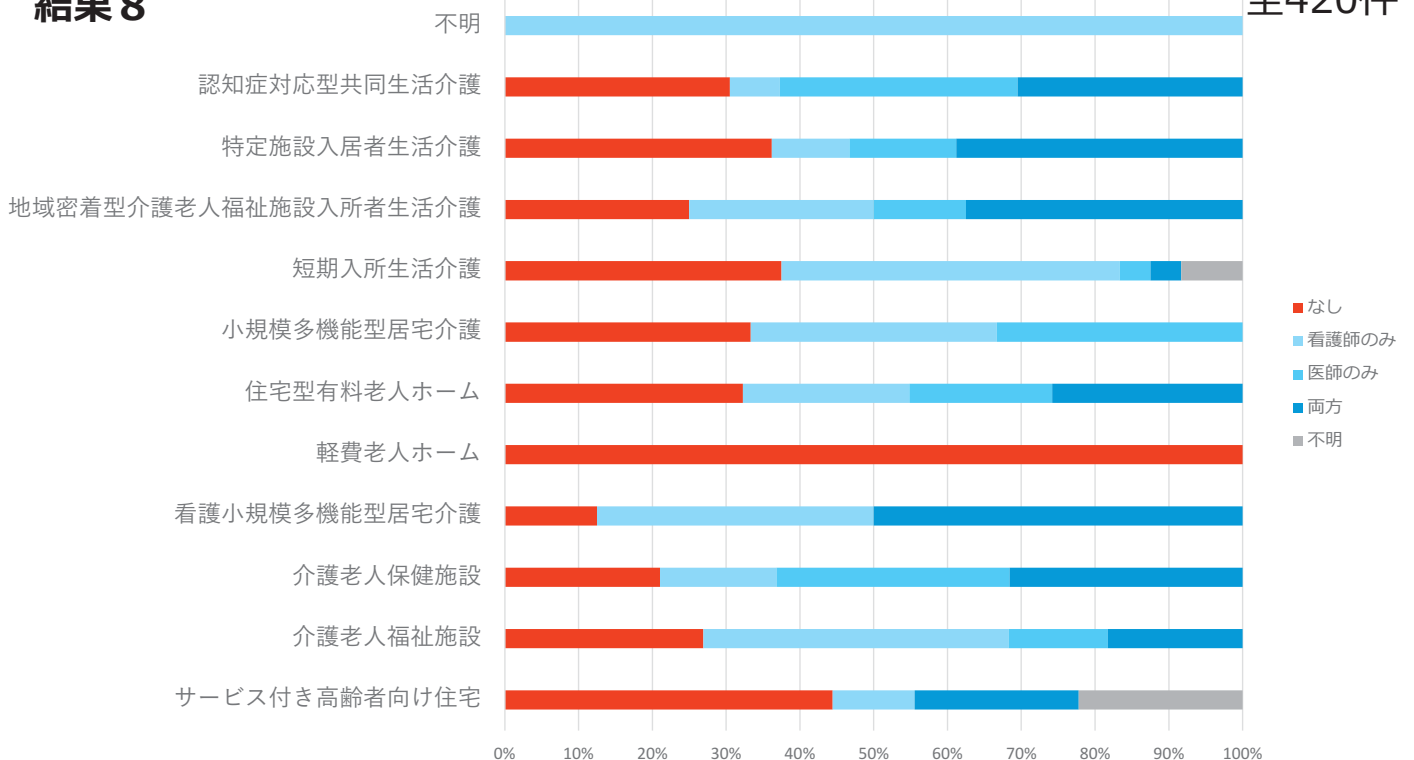
# 転倒件数／入居者数はグループホームで高い

## 結果7 入居者（利用者）数に対する転倒の発生件数（%） 全420件



## 施設類型と医療職への相談状況

## 結果8 全420件

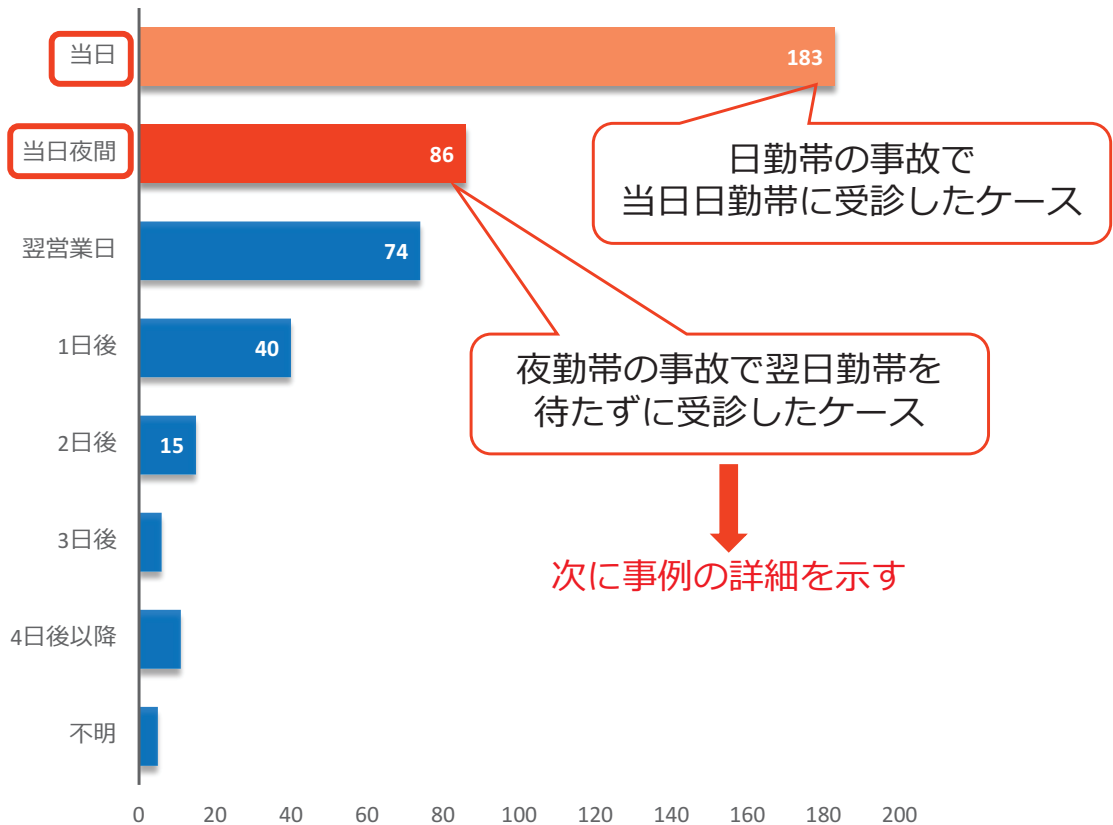


- ・ 看多機、老健、特養などで医療職への相談割合が多い傾向である
- ・ 施設類型のみによって一定の傾向を見出すことは難しい
- ・ 個々の施設・連携先医療機関の質や連携の状況によると考えられる

# 当日・当日夜間の受診がとても多い

## 結果9

### 搬送のタイミング

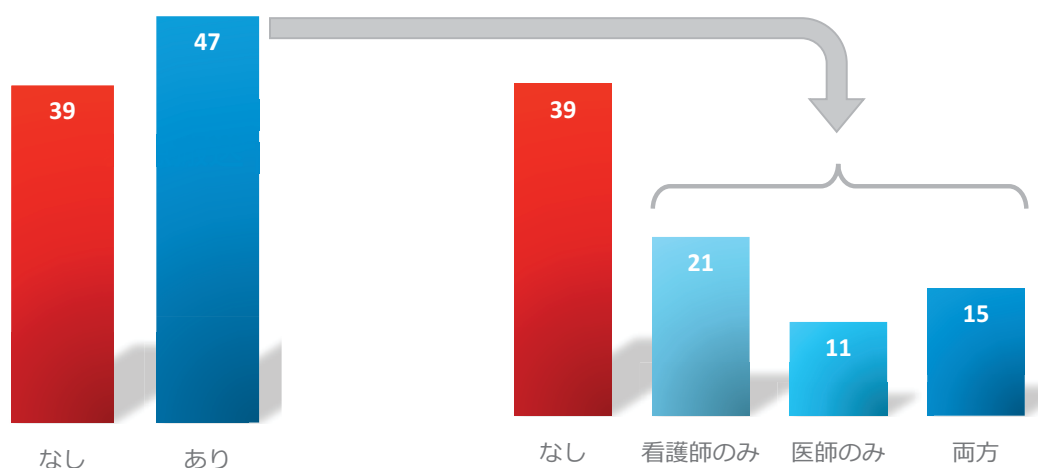


# 夜間緊急受診したケースの内訳

## 結果10

医療職への相談

医療職の内訳

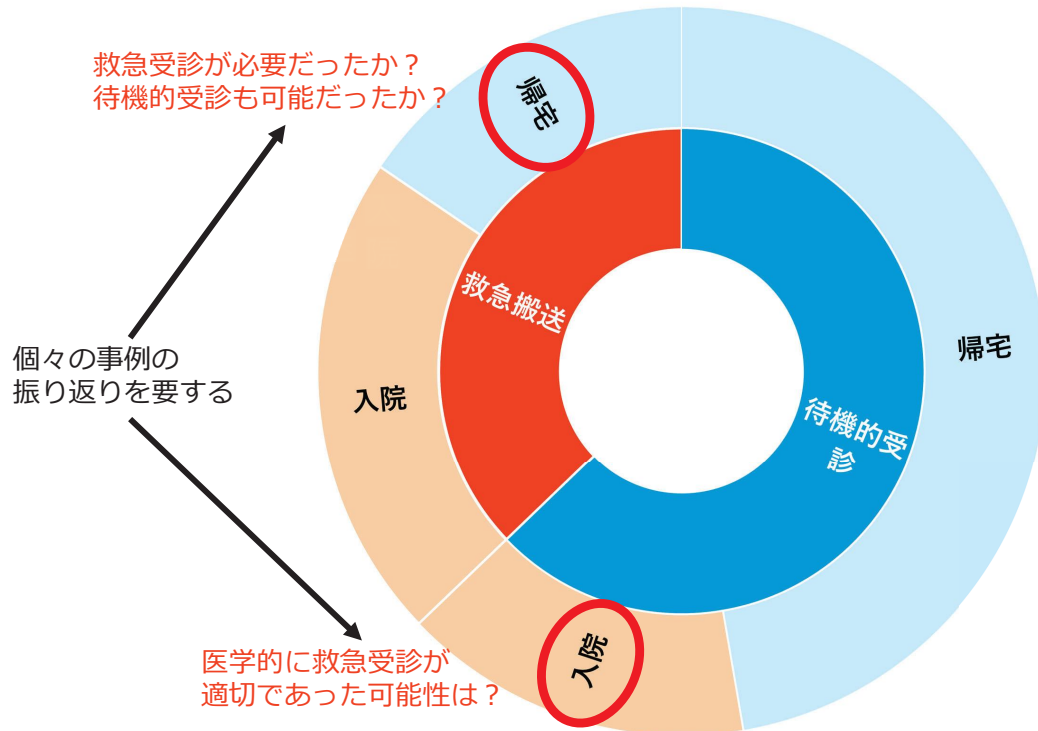


- ・ **相談なし**が最も多く39件、うち入院5件
- ・ 頭部外傷（頭を打った）が19件、打撲13件など緊急を要さないものが多い  
重篤なものは大腿骨骨折2件、その他骨折2件、頭蓋内出血1件
- ・ **医師へ相談した26件のうち入院は15件**
- ・ 大腿骨近位部骨折9件、頭部外傷8件、他の骨折7件など比較的妥当な内容

結果的に夜間受診した事例でも、後方視的にみると、医療職に相談した事例は受診の必要性が高く、相談せずに受診した事例は受診の必要性が低い状態であった

# 受診の形態と転帰

## 結果11



- ・「医学的に必要な受診」や「訴訟対策や家族希望による安全管理のための受診」が混在しており、報告書からどのような判断で受診に至ったかが十分読み取れない
- ・将来的には、これらの疑問について報告書から判断でき、事例の振り返りに生かせることが望ましい

## まとめ・今後の課題

- ◆ 介護度・転倒場所・発見契機・最終診断の分布は、先行した3か月分の報告書分析と相違なかった  
→3か月分（約100件）程度の分析ができれば年間の傾向を代表しうる
- ◆ **事故発生から報告日まで、 $32 \pm 55$ 日**を要しており、最長で300日を超えてからの報告もあり、不適切な可能性
- ◆ “念のため受診”と考えられる事例が散見される
- ◆ 好事例や重大・問題事例の共有・振り返りの機会がない
- ◆ 医療職への相談状況や搬送決定者（どのように決定したか）の記載が不明瞭な報告書が多く、医療介護連携の状況と適切な受診の関連については十分に検討することは難しかった

⇒新様式での報告を推奨

事故(災害)報告書

年 月 日

松戸市長 様

施設名

印

施設長名  
(管理者名)

(担当者氏名 )

当事者名(ふりがな)			
年齢	歳	性別 男・女	入所・利用開始年月日 年 月 日
施設類型			
介護認定 有 (介護度: 被保険者番号: 保険者 ) ・無			
事故発生(発見)時の状況			
発生(発見)日時 年 月 日 (曜日) 時 分			
発生(発見)場所			
発生(発見)時の状況(発見の端緒、転倒の場合は姿勢や症状、バイタルサインなどなるべく詳細に)			
予想される事故発生機転			
発生(発見)からの対応状況			
医療職への報告 有 ・ 無 有の場合、相談相手の職種			
医療職からの口頭・往診における指示内容(医療職に相談しなかった場合はその理由)			
病院受診の有無 有 ・ 無 受診の種類 救急搬送 ・ 待機的受診			
搬送(受診)の決定者			
診断名			
その後の経過(手術を要した、縫合が必要だった、など分かる範囲で具体的に)			
入院の有無 有 ・ 無			
事故対応・再発防止の取り組み			
ご家族への報告のタイミングと内容、ご家族の反応			
再発防止策			

※ 当事者が複数の場合は、必要により別葉に記入してください。



事故(災害)報告書

令和2年 2月 8日

松戸市長 様

施設名

印

施設長名  
(管理者名)

(担当者氏名)

当事者名(ふりがな)	松戸 太郎(まつど たらう)		
年齢	82歳	性別	男
入所・利用開始年月日	平成 31年 1月 23日		
施設類型	介護老人福祉施設		
介護認定	有 (介護度: 3)	被保険者番号	xxx
保険者	xxx ) ・無		
事故発生(発見)時の状況	<p>発生(発見)日時 令和 2年 2月 6日 (木曜日) 6時 30分</p> <p>発生(発見)場所 居室のベッドサイド</p> <p>発生(発見)時の状況 ----- <b>なぜ事故が発生したのかを推測できるように、発見のきっかけや、転倒の場合は発見時の姿勢や症状・バイタルサインを具体的に記載する</b></p> <p>ラウンド中、ドスンと音がしたため訪室すると、利用者がベッドサイドでしりもちをついていた。腰を痛がるものの、介助にてベッドに戻ることができた。受け答えや会話はいつも通りできた。頭は打っていないようだ。</p> <p>予想される事故発生機転 ----- <b>これをもとに、再発防止策を考えられるように記載する</b></p> <p>ベッドから立ち上がったときに膝折れしてしりもちをついたようです。脳梗塞後で右側に軽い麻痺があるため、ベッド柵をうまくつかみそこねた可能性がある。</p>		
発生(発見)からの対応状況	<p>報告のタイミング、受けた指示とその根拠について簡潔に記載</p> <p>医療職への報告 <b>有</b> ・ 無 有の場合、相談相手の職種 オンコールの看護師</p> <p>医療職からの口頭・往診における指示内容(医療職に相談しなかった場合はその理由)</p> <p>発生時にオンコール看護師に報告した。痛みの程度や意識の変化がないことから緊急性は低いとの判断で、日勤帯まで安静にして待つよう指示された。出勤した看護師が8時半に本人の状態を確認。骨の部位に一致して圧痛があり骨折の可能性が否定できないとのことで、嘱託医に報告して指示を仰ぐことになった。</p>		
病院受診の有無	<b>有</b> ・ 無	受診の種類	救急搬送 ・ <b>待機的受診</b>
搬送(受診)の決定者	嘱託医		
診断名	打撲		
その後の経過	<p><b>手術を要した、縫合が必要だった、など分かる範囲で具体的に記載する</b></p> <p>念のため圧迫骨折がないか確認するために、整形外科を受診することになった。嘱託医が用意してくれた情報提供書を持参して、同日中に施設職員の介助のもと受診した。レントゲンの結果、骨折はなく、シップと痛み止めで様子を見ることになった。</p>		
入院の有無	有 ・ <b>無</b>	<p><b>転倒や急病の際、どのタイミングで連絡するか(発生の直後か、夜間は避けてほしいか、など)は事前にご家族と合意しておくことが望ましい</b></p>	
事故対応・再発防止の取り組み	<p>ご家族への報告のタイミングと内容、ご家族の反応</p> <p>7時すぎに奥様に電話で転倒について一報を入れた。看護師・医師と相談後に受診予定となったことを再度電話で伝えた。受診結果を報告したところ、奥様からは「お世話をかけました。以前から立ち上がる時危なっかしいなと思っていたけど、たいしたことがなくてよかった。」とお話があった。</p>		
再発防止策	<p><b>他の職員や、他施設の職員が読んでも次に生かせるような記載を心がける</b></p> <p>利き手の右側に麻痺があるため、手すりをつかみそこねることがある。ベッドの配置や、左側にも手すりを設置できるか検討する。また、ふらつきを助長する薬を内服していないか、医師に相談する。</p>		

※ 当事者が複数の場合は、必要により別葉に記入してください。